

かるいざわ
軽井沢駅前地区まちづくり総合支援事業

受賞機関 長野県軽井沢町

はじめに

軽井沢町は、長野県の東端に位置し、わが国有数の歴史ある保健休養地として年間約780万人が訪れている。

そのような背景の中で、北陸新幹線及び上信越自動車道整備構想が策定され、かねてより期待されていた高速交通時代へ向けての具体的な対応策を早急にとりまとめることが必要となった。

平成2年度に学識経験者等からなる軽井沢駅周辺地区計画調査委員会を発足し、具体的な構想をとりまとめ、都市計画決定をはじめとした調査・設計・手続き等を行い、平成5年(1993)から事業に着手、平成9年(1997)10月1日の新幹線開業に合わせて、駅前地区の主要施設の供用を開始し、関連する事業も本年3月にすべて終了した。

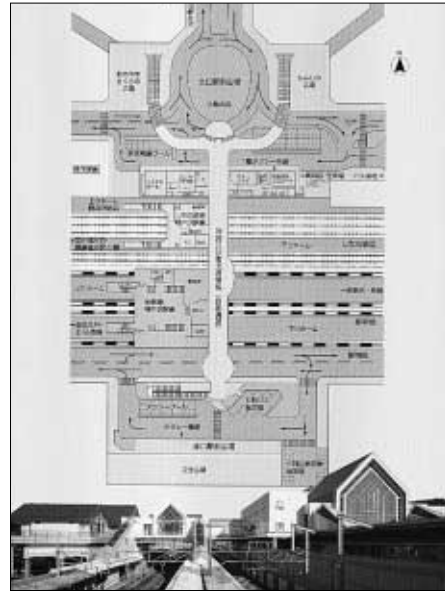
計画の大きな柱は、駅を中心とした歩行者及び関係公共交通機関との円滑な連携を図ることであり、長野県の東の玄関口にふさわしいロビー機能と景観に配慮したシンプルな計画で、また町の100年先を思考したものである。



南北駅前広場と自由通路

主要施設の事業概要

構造：鉄骨耐火構造3階建て
 延床面積： 802.32㎡(街路「通称自由通路」)
 1,417.13㎡(都市施設さわやかハット)
 合計 2,219.45㎡
 最高高さ：18.57m
 自由通路：幅員2.2m～8m、総延長228m
 駅前広場：北口駅前広場 5,750㎡
 南口駅前広場 4,900㎡
 工事期間：平成5年度～平成9年度(関連12年度)



軽井沢駅周辺案内図

事業の特徴

北口の旧市街地(旧軽井沢)を結ぶ県道を都市軸に据え、その軸上に軌道をオーバーで南北に結ぶ歩行者専用道路(自由通路)を配置して、各歩行者広場に車と交差することなく接続できる、人優先の整備を行った。また、北口の都市側施設のさわやかハット内には、上り下り専用のエスカレーターをはじめ、エレベーターを設置してバリアフリー対応をしている。

中心市街地と接点である北口駅前広場は、無信号・無電線化を図るため、時計回りのロータリー形式により車の流動を行い、その中央に新幹線事業により支障となった、樹齢約90年の当町で育まれたケヤキを移植して、軽井沢を訪れる皆さんを緑で迎える工夫を施し、景観形成を行った。

南北を含め屋外のデッキ歩道部分には、電熱式の無散水融雪装置を設け、安全な歩行の確保を行った。

軽井沢町都市施設“さわやかハット”は、ロビー機能を持たせ、コミュニティーセンター、多目的ホール、観光案内所、軽飲食コーナー等のサービス施設を設置し、来訪者が一息つける施設とした。